

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1770500104		
法人名	有限会社 なかたに		
事業所名	グループホーム わきあい愛		
所在地	石川県珠洲市上戸町北方五字175番地1		
自己評価作成日	令和 3年6月25日	評価結果市町村受理日	令和3年9月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(有)エイワイエイ研究所		
所在地	金沢市無量寺5丁目45-2 サンライズⅢ106号		
訪問調査日	令和3年9月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「その人らしさを大切に」を理念に掲げ、一人一人のリズムで暮らして頂けるよう支援しています。また、ショッピングセンターや多目的ホールが散歩コースの中にあり、踊り・民謡などいろんなイベントを楽しむことができますが、近年、新型コロナウイルス感染症予防の為、外出を控えています。隣接地には医院があり、緊急時には先生が駆けつけて来て下さり、24時間安心して暮らす事ができることから利用者・ご家族の方から大変喜ばれております。

当ホームは「その人らしさを大切に」を理念として掲げ、利用者個々の生活歴・生活リズム等を大切にした支援に取り組んでいる。職員は日常会話の中から、利用者個々の思い(したい事、好きな事等)を把握するようにしている。利用者の思いは介護計画にも反映しながら、その実現を図っている。理念に沿い、「その人らしい暮らし」が送れるよう、利用者個々の「楽しみや得意な事」「健康管理・事故防止」等を重視した介護計画を作成し、日々の実践に繋げている。介護計画は利用者へ説明し、本人から同意(サイン)をもらうようにしている。医療面では入居前からのかかりつけ医への継続受診、又は併設医院の医師による健康管理を選べるようになってきている。かかりつけ医への受診は職員が支援しており、各主治医と密な連携を図っている。併設医院の医師による24時間のサポート体制も確保されており、安心できる環境が整えられている。コロナ禍の為、現在は自粛しているが、平時は散歩時の挨拶、地区の祭礼行事見学、多目的ホールでのイベント鑑賞、高校生ボランティアの受け入れ等を通じ、地域との交流を図るようにしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
60	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	67	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
61	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,42)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	68	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
62	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:42)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
63	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:40,41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
64	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:53)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	71	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
65	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	72	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
66	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	「その人らしさを大切に」という理念があり、その人の生活に近づけるよう支援している。	「その人らしさを大切に」を理念として掲げ、利用者個々の生活歴・生活リズム等を大切にされた支援に取り組んでいる。理念はユニット内の掲示、ミーティングでの話し合いを通じ職員への周知を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員は、通勤時等にあいさつを交わしているが、利用者はコロナ渦で散歩できていない。	コロナ禍の為、現在は地域との交流は自粛している。平時は散歩時の挨拶、地区の祭礼行事見学、多目的ホールでのイベント鑑賞、高校生ボランティアの受け入れ等を通じ、地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談があったら対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の推進会議では現状報告や行事などを報告し助言等参考にしている。昨年より、コロナウイルス感染予防のため利用者は参加を控え、別棟で開催している。	ホーム外の建物で利用者家族・地域住民・警察職員、市担当者等をメンバーとし、運営推進会議を開催している。又、コロナの感染状況に応じて、書面でメンバーに活動報告を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2か月に1回の推進会議で状況を報告したり、随時、市・担当者まで訪問し、報告・相談をしている。	運営推進会議での情報交換等を通じ、市担当者との連携強化を図っている。運営上の疑問点・相談等が生じた場合は市担当課に出向き、必要な助言を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現場でその都度話し合ったりミーティングで話し合っている。	運営推進会議の中で、身体拘束適正化委員会(年4回)を実施している。又、ミーティングの中でも都度、グレーゾーンやスピーチロックについての話し合いを行い、改善を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修への参加はコロナ渦のためできていない。職員同士おかしいと思った事や利用者の声を聴き、その都度話し合い防止に努めている。スタッフルームの目につきやすい所に、虐待の具体的な内容を張り出している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は学ぶ機会を持っていない。管理者はケア会議の中で学ぶ機会はある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に1回ホームより、おたよりを出しホームでの生活をお知らせしている。コロナで面会時に意見を聞くことが難しいので、メール・ライン・電話などで話を聞いている。	家族の意見・要望を引き出せるよう、毎月のホーム便り(写真、個別のコメント添付)で利用者一人ひとりの暮らしぶりを伝えている。普段は面会時に家族の意見・要望を聴くようにしているが、コロナ禍の為、メール・ライン・電話等で情報交換を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや全体の会議などで話をする機会を作っている。	ユニット毎のミーティング時(毎月)に、職員の意見・提案を吸い上げる機会を設けている。管理者は必要時応じ、職員との個別面談も行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	経験や資格に関係なく職員個人を評価してくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の力量をみて研修に行ける機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流はない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話を聞く機会を作り努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にケアマネから情報を頂いたり入居されてからも話をする機会を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前、入居時によく話を聞き努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	関係を築けるよう努めているが全職員とは言えない。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の時に家族の方と話をしながら行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今はコロナで外出できていない。出来るようになったら行けるようになりたい。	コロナ禍でも家族との繋がりが途切れないよう、ガラス越しで面会できるように配慮している。平時は家族・友人・知人等の気軽な面会、自宅への外泊・地元の祭礼行事への参加、行きつけの理美容院・商店・病院等の継続利用等を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士仲良く過ごせるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	外でお会いした時にはお話をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との会話の中から希望、意見を聞き取り努めている。	日常会話の中から、利用者個々の思い(したい事、好きな事等)を把握するようにしている。利用者の思いを聞いた場合は職員間で情報共有+介護計画にも反映しながら、その実現を図っている。意思疎通が難しい場合は家族からの情報・生活歴を参考に職員側から働きかけ、表情等から「思い」を推察している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者との会話の中や、ご家族の方ケアマネから話を聞き努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日その時の状態を申し送りは把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人との会話の中から、やりたいこと・やってみたいことを聞き出し、プランを作っている。	理念に沿い、「その人らしい暮らし」が送れるよう、利用者個々の「楽しみや得意な事」「健康管理・事故防止」等を重視した介護計画を作成し、日々の実践に取り組んでいる。介護計画は利用者に説明し、本人から同意(サイン)をもらうようにしている。	より、利用者のやりたい事・やってみたい事を重視した、具体的な内容の介護計画の作成が期待される。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に記載し、職員同士話合ったり、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度、家族に相談し対応できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	なるべく催しものやお祭り・イベントには参加するようにしている。コロナ渦で、祭礼が中止となり参加できなかった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に受診し職員が同行し報告、相談し医療を受けられるよう支援している。今では、送迎もして頂いて安心して行くことができる。	入居前からのかかりつけ医への継続受診、又は併設医院の医師による健康管理を選べるようになってきている。かかりつけ医への受診は職員が支援しており、各主治医と密な連携を図っている。併設医院の医師による24時間のサポート体制も確保されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診の時、報告、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携室との連携を密にし、情報交換・相談も随時行い、ご本人の声をかけ様子をみている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明し方針を聞いている。段階的に医師を含め、その都度、確認・話し合いをしながら取り組んでいる。	併設医院の医師によるバックアップを得ながら、ホームとして可能な限りの重度化・終末期支援に取り組んでいる。利用者の重度化の状況に応じて、医師・家族と話し合う場を設け、方向性を確認している。現状、「最後は病院で」という選択が多いが、揺れ動く家族の意向を都度受け止めて対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの研修は行ったが応急手当の訓練はしていない。		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	緊急連絡網が、わかる所に貼ってありマニュアル通りに出来るようになっている。	事故発生時の対応手順(フローチャート図)を整えている。救急搬送に備え、救急隊への情報提供書に予め必要な事項を記載している。又、緊急時は併設医院の医師に相談し、指示を仰げる体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	協力医療機関や介護老人保健施設歯科医院との支援体制は確保されている。	併設医院の医師、市総合病院による医療支援体制を確保している。又、地域の介護老人保健施設とは契約で支援体制を確保している。	
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したもとなっている	体制は整っている。	夜間帯は各ユニット1名の夜勤者を配置し、ホーム内で計2名の複数体制となっている。又、緊急連絡網による併設医院への相談体制や近隣在住職員の応援体制も整備されている。	
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難できる方法は身につけている。	非常災害時対応マニュアル・防火設備一式を整備し、年2回、火災を想定した訓練(部分訓練1回、総合訓練1回)を実施している。2ヶ月に1回、利用者と一緒にユニット毎の一時避難場所の確認を行い、意識付けを図っている。又、年1回、市の防災訓練に合わせて、自然災害(津波、地震等)を想定した訓練を実施している。備蓄品(食料、医薬品、衛生用品等)はリスト化し、適切に点検・保管している。	近隣地域との協力体制をより深められることを期待したい。
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	緊急連絡網が、わかる所に貼ってあり対応できるようになっている。2ヶ月に1度、ミーティングのあと、利用者と一緒に、ユニット毎に決めている一時避難場所に避難をするミニ訓練を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その都度話あったりミーティングで話し合い対応している。	利用者の尊厳に配慮し、不適切な言動があれば管理者が都度、注意喚起している。又、トイレ誘導時は他者に悟られないようにしたり、同性介助の希望に応じる、利用者を前にしての情報交換は控える等、プライバシーにも注意を払っている。	
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己解決ができるよう言葉がけに気を付け対応している。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望にそって支援できるよう対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の希望にそって支援している。		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人その人の力量やその日の体調気分を見極めて一緒にしている。	地域のスーパーや生協で旬の食材を取り寄せ、季節感や郷土色を考慮した手料理を提供している。プランターや畑で育てた野菜も、食材として活用している。家事が得意な方には、役割り(皮むき、味付け、洗米等)を担ってもらっている。季節毎の行事食(御節料理等)やおやつ(おはぎ等)作り、誕生日には個々のリクエストに応じる等、食事が楽しみとなる支援も行っている。	
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を記録して、その人その人のあった食べる量、水分量を考え対応している。		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その都度声掛けで口腔ケアをしている方その人その人に応じた口腔ケアをしている。		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを見ながら把握し、利用者の方の動き等で察知し支援できるよう努めている。	可能な限り、「トイレで排泄」出来るように支援している。入所時(退院直後等)はオムツ使用者でも、状態を見極めながら紙パンツに移行できるようにしている。誘導が必要な方には個々の排泄間隔やサイン(目がキョロキョロする等)を掴み、適宜お誘いの声をかけている。家族の負担軽減も考慮し、排泄備品の使用は必要最小限としている。	
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	その人その人に応じた予防を心がけている。		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週4回入浴日があり、職員の体力も考え、利用者の方にゆっくり入って頂けるよう4回から5回に増やした。お湯の中に入れない方は、足浴とシャワー浴で温まって頂いている。	各ユニットで週4日お風呂を沸かし、利用者個々の希望(湯加減、一番風呂はイヤ等)に沿った入浴を支援している。昔ながらの季節湯(柚子湯、菖蒲湯)を楽しむ機会を設けている。入浴を拒む方には無理強いせず、清潔を保つ(足浴、ドライシャンプー、清拭等)ように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床の時間は決まっていなく、眠って居られれば声をかけず見守りをしている。		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を見て確認し、薬が変わった時など体調の変化に注意している。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その日の体調をみながら、食事の盛り付け、後片付けをして頂いている。		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿って買い物、散歩に出掛けて支援している。	コロナ禍の為、気軽な外出は自粛するようにしている。但し、テラスでの外気浴や畑作業、車内からの花見ドライブ等を支援している。平時は気分転換を兼ね、気軽な外出(散歩等)や季節感を味わう外出・普段行けない場所への外出等も支援している。	
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望にそって支援している。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望があれば支援している。		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳コーナーにはコタツを置いたり季節の花を生けたりしている。	リビングから海の風景が眺められる造りとなっている。建物内は飾りつけ等は極力控え、大人の空間造りに配慮している。畳コーナーは気軽にゴロ寝する場、冬季はコタツを楽しむ場として活用している。廊下奥にもソファを配置し、一人や仲の良い人同士で過ごせる空間を確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ロビーのソファでゆっくりと過ごされたり仲の良い方と一緒にコタツに入り過ごされている。		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いなれた物、使っていた物を持って来て頂き居心地良く過ごせるよう、ご家族にもご協力を得ながら対応している。	居室で居心地良く過ごせるよう、使い慣れた物(タンス、自宅で使用していたベッド等)を持ちこんだり、安心出来る物(家族からの贈り物、家族の写真、遺影等)を飾っている。	
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとりできる事を活かし声かけし安全に気をつけ自立した生活が送れるよう配慮している。		